

## 豪気会の顕著な功績を礼讃する

神戸大学工学部機械工学科を昭和32年（1957年）御卒業の5回生の皆様のあまり知られていないが、誠に素晴らしい事績を紹介させていただきます。5回生の同窓会の名称は、「豪気会」です。機械工学科5回生を振った粋な名称です。この「豪気会」は、神戸大学並びに工学部に多くの素晴らしい事物を残してくださいました。

現在の工学部のある場所は、尾根を削り、沢を埋めて造成した、草木のない、赤土だけの荒涼としたところでした。そこに、順次学舎が建設されました。環境整備の一つである植栽に関しては、遅々として進みません。建築学科の教授で工学部長だった堯天義久先生は、その頃から、その状態を嘆いておられました。その窮状を察してか、豪気会から、何とか支援しましょうとの申し出がありました。工学部から、初めて学長になられていた堯天義久学長先生に連絡をし、豪気会のメンバー数人にお会いいただきました。学長先生は、大変喜ばれ、植樹場所として当時の生産機械工学科棟の東の空き地が選ばれました。正式な門の無い工学部にとって、ここは、北から車で入って来ることが出来る貴重な所です。馬場を右に見ながら前を見ると、初めて、工学部の建屋が目に入ります。

植樹式の日には、学長先生が、お忙しい中、現場に来てくださいました。学長先生の豪気会メンバーに対する感謝のご挨拶に始まり、鍬入れ、そして植樹へと続き、そこに、ヒマラヤシーダーなど数本の木が植えられました。

その後、豪気会から、大学のキャンパスに相応しい、何か良い記念になるものを寄贈したいとの提案を戴きました。早速、大学の先輩である建築学科の嶋田勝次先生に相談をいたしました。先生は、石彫作家 増田正和氏 を紹介してくださいました。大変立派な作品です。ところが、いざ、その作品を展示しようとした段階になって、難しい問題に直面しました。当時、学内は大きく揺れていました。その展示場所によっては、作品に、ビラが貼られるかもしれない、鏡面状に磨き上げられた綺麗な面が傷つけられるかもしれないとか、・・・、関係者から、いろいろと心配事が示され、結果的に、比較的人目につかない場所に置かれることになってしまいました。人々の心に良きものをもたらす立派な作品を、人目につかない場所に展示しなければならないとは。本来の目的とは、真逆のことになりました。当時の学内の混乱状態からすると、致し方なかったことかとは思いますが、この立派な作品は、工学会館の裏手の空き地に、置かれました。

専門課程を西代学舎で過ごした世代にとって、あの場所は、掛け替えの無い場所です。あの学舎跡は、神戸高等工業学校の発祥の地であり、神戸工業専門学校並びに神戸大学工学部が存在した場所です。この史実を示す何か記念になる証を設けられないものかとの話が持ち上がり、これまた、堯天学長先生に相談することになりました。学長先生からは、大変意義のあることで、大賛成である。神戸大学工学振興会の総会において、豪気会がこの提案を行って欲しい。との趣旨のご発言がありました。

総会当日、全ての議事が終わったところで、豪気会の上原尚廣氏が、ご審議いただきたいことがありますと述べて、西代学舎跡に、神戸高等工業学校、神戸工業専門学校並びに神戸大学工学部が存在した史実を示す記念碑を設けることを提案されました。突然のことでしたが、満場一致で記念碑を設けることが決まりました。

なお、本件に関して、当今のフェイクニュースのような記事が新聞に掲載されたようでしたが、無事に、記念碑の除幕式を迎えることが出来ました。今は、区画整理とかの関係で、当初の場所から少し離れたところに移されたと伺っています。

石碑の表面には、	石碑の背面には、
神戸高等工業学校	神戸高等工業学校 1921
発祥之地	神戸工業専門学校 1944
	神戸大学工学部 1949

と刻されています。

豪気会は、以上のように、数々の素晴らしい業績を残された同窓会です。この機会に、改めて、心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

神戸大学名誉教授 坂口忠司  
神戸大学工学部機械工学科  
昭和 35 年（1960 年）卒業

令和 4 年（2022 年）5 月 20 日